

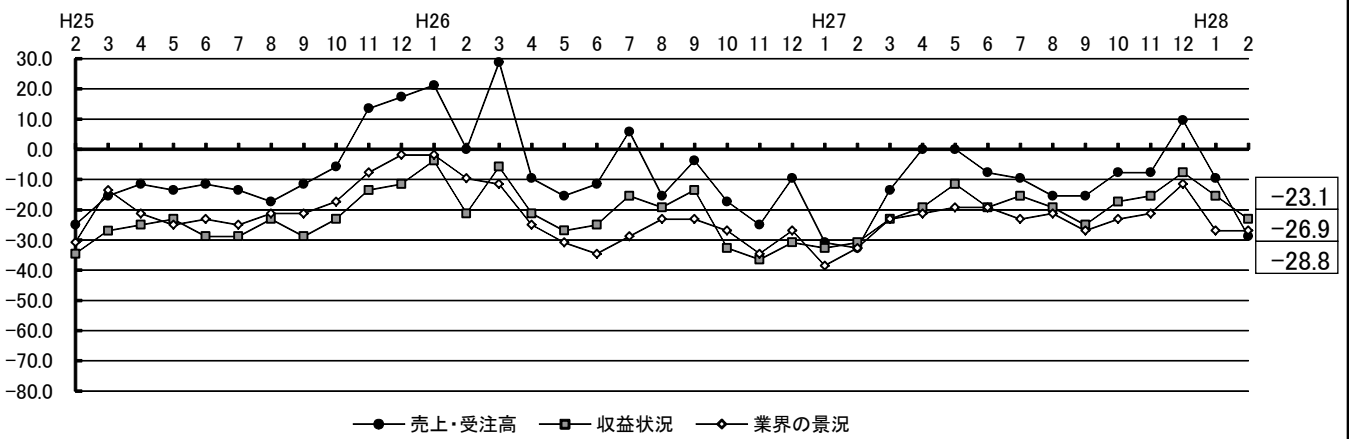
中小企業団体情報連絡員報告結果(平成28年2月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員（中小企業組合（協同組合、商工組合等）の役職員52名に委嘱）による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 2月の前年同月比DI値は、前月の前年同月比DI値と比べて、9指標中「売上高」「在庫数量」「販売価格」「取引条件」「収益状況」「設備操業度」「雇用人員」の7指標が低下した。
- 主要3指標は、「売上高」が前月より19.2ポイント低下の-28.8ポイント、「収益状況」が7.7ポイント低下の-23.1ポイント、「業界の景況」が前月と同ポイントの-26.9ポイントであった。
- 「売上高」が15ポイントを超えて大幅に低下し、「収益状況」「設備操業度」が5ポイントを超えて大きく低下した。「売上高」「販売価格」「取引条件」「収益状況」が2ヶ月連続で低下し、「雇用人員」が3ヶ月連続で低下した。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上・受注高	-28.8	-19.2	-20.5	7.5
収益状況	-23.1	-7.7	-22.9	2.7
業界の景況	-26.9	0.0	-27.8	0.9

売上・受注高

当月の県内売上・受注高DI値は、前月より19.2ポイント低下の-28.8ポイントとなった。全国においては、前月より7.5ポイント上昇の-20.5ポイントとなった。

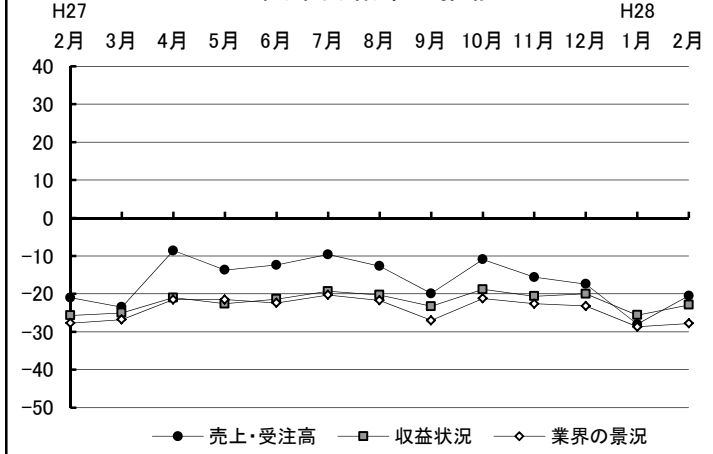
収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月より7.7ポイント低下の-23.1ポイントとなった。全国においては、前月より2.7ポイント上昇の-22.9ポイントとなった。

業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月と同ポイントの-26.9ポイントとなった。全国においては、前月より0.9ポイント上昇の-27.8ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概況-

2月の前年同月比D I値は、前月の前年同月比D I値と比べて、9指標中「売上」「在庫」「価格」「条件」「収益」「操業」「雇用」の7指標が低下した。主要3指標は、「売上」が前月より19.2ポイント低下の-28.8ポイント、「収益」が7.7ポイント低下の-23.1ポイント、「景況」が前月と同ポイントの-26.9ポイントであった。指標を個別に見ると、「売上」が15ポイントを超えて大幅に低下し、「収益」「操業」が5ポイントを超えて大きく低下した。「売上」「価格」「条件」「収益」が2ヶ月連続で低下し、「雇用」が3ヶ月連続で低下した。

また、業種別の状況を見ると、図表4のとおり、「売上」は製造業で7業種中1業種が上昇、4業種が低下し、非製造業で6業種中4業種が低下した。「収益」は製造業で2業種が上昇、1業種が低下し、非製造業で4業種が低下した。「景況」は製造業で1業種が上昇し、非製造業で1業種が上昇、2業種が低下した。

全国指標では、前月の前年同月比D I値と比べて9指標中7指標が上昇、2指標が低下した。年度末需要や稼働日の増加等が売上高を押し上げた一方、労働力不足や消費者の廉価志向も一層顕在化しており、また株安・マイナス金利実施など金融環境の流動化も相まって、中小企業の先行きは依然として予断を許さない状況にある。

図表1～【業種別・指標別動向一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	操業	雇用	景況
食料品製造	△	×	△	△	△	△	△	△	△
繊維・同製品	△	△	△	△	×	△	△	△	×
木材・木製品	○	○	△	△	○	○	△	△	△
印刷	×	△	×	△	×	△	△	△	×
窯業・土石	△	△	△	△	△	△	△	△	△
鉄鋼・金属	×	×	△	△	△	△	△	△	△
一般機器	△	△	△	△	△	△	△	△	△
卸売業	△	△	△	△	△	△	—	△	△
小売業	×	△	△	△	×	△	—	△	×
サービス業	×	—	△	△	△	△	—	△	△
建設業	△	—	△	△	△	△	—	△	△
運輸業	×	—	△	△	△	△	—	△	△
その他	×	—	△	△	×	△	—	△	×

○ 増加・上昇・好転 (DI値 +40ポイント以上) △ 不変 × 減少・低下・悪化 (DI値 -40ポイント以下)

図表2～【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	操業	雇用	景況
食料品製造	-25.0	-50.0	0.0	0.0	-25.0	-25.0	-25.0	0.0	-25.0
繊維・同製品	0.0	25.0	25.0	-25.0	-50.0	-25.0	-25.0	-25.0	-50.0
木材・木製品	50.0	50.0	-25.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	-25.0
印刷	-100.0	0.0	-100.0	0.0	-100.0	0.0	0.0	0.0	-100.0
窯業・土石	-25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
鉄鋼・金属	-50.0	-50.0	0.0	0.0	-25.0	0.0	-25.0	0.0	0.0
一般機器	-25.0	0.0	0.0	0.0	-25.0	0.0	-25.0	0.0	-25.0
小計	-16.0	0.0	-4.0	-4.0	-16.0	0.0	-16.0	-4.0	-24.0
卸売業	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	/	0.0	0.0
小売業	-85.7	-14.3	14.3	-28.6	-57.1	-28.6		0.0	-57.1
サービス業	-66.7		0.0	-16.7	-33.3	-16.7		-33.3	-33.3
建設業	20.0		0.0	0.0	-20.0	0.0		0.0	0.0
運輸業	-50.0		25.0	0.0	0.0	0.0		0.0	-25.0
その他	-50.0		0.0	0.0	-50.0	0.0		0.0	-50.0
小計	-40.7	0.0	7.4	-11.1	-29.6	-11.1		-7.4	-29.6
合計	-28.8	0.0	1.9	-7.7	-23.1	-5.8	-16.0	-5.8	-26.9

図表3～【指標別DI値の推移】

	H27											H28	
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
売上高	-32.7	-13.5	0.0	0.0	-7.7	-9.6	-15.4	-15.4	-7.7	-7.7	9.6	-9.6	-28.8
在庫数量	-11.4	0.0	-8.6	5.7	-2.9	-8.6	0.0	-8.6	-20.0	0.0	-2.9	2.9	0.0
販売価格	3.8	5.8	1.9	9.6	7.7	11.5	7.7	3.8	7.7	3.8	7.7	3.8	1.9
取引条件	-9.6	-3.8	-5.8	-9.6	-7.7	-3.8	-1.9	-7.7	-1.9	-1.9	-1.9	-3.8	-7.7
収益状況	-30.8	-23.1	-19.2	-11.5	-19.2	-15.4	-19.2	-25.0	-17.3	-15.4	-7.7	-15.4	-23.1
資金繰り	-11.5	-5.8	-7.7	-11.5	-11.5	-13.5	-11.5	-11.5	-3.8	-5.8	-9.6	-5.8	-5.8
設備操業度	-36.0	-16.0	-24.0	-8.0	-20.0	-8.0	-8.0	-16.0	-20.0	-4.0	-16.0	-8.0	-16.0
雇用人員	-13.5	-17.3	-11.5	-13.5	-15.4	-17.3	-7.7	-7.7	-3.8	0.0	-1.9	-3.8	-5.8
業界の景況	-32.7	-23.1	-21.2	-19.2	-19.2	-23.1	-21.2	-26.9	-23.1	-21.2	-11.5	-26.9	-26.9

図表4～【前月DI値差】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	操業	雇用	景況
食料品製造	-25.0	-50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-25.0	0.0	0.0
繊維・同製品	0.0	-25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
木材・木製品	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	-25.0	0.0
印刷	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
窯業・土石	-25.0	0.0	0.0	0.0	-25.0	0.0	0.0	25.0	0.0
鉄鋼・金属	-25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0
一般機器	-25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-25.0	0.0	0.0
小計	-8.0	-8.0	0.0	0.0	4.0	4.0	-8.0	0.0	4.0
卸売業	-33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	△	0.0	-33.3
小売業	-57.1	14.3	-14.3	-14.3	-14.3	0.0		0.0	0.0
サービス業	-33.3	△	0.0	-16.7	-33.3	-16.7		-16.7	0.0
建設業	-20.0		0.0	0.0	-20.0	0.0		0.0	20.0
運輸業	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
その他	0.0		0.0	0.0	-50.0	0.0		0.0	-50.0
小計	-29.6	10.0	-3.7	-7.4	-18.5	-3.7	-3.7	-3.7	
合計	-19.2	-2.9	-1.9	-3.9	-7.7	0.0	-8.0	-2.0	0.0

特記事項

情報連絡員報告（平成28年2月分）

所属組合	特記事項
酒類製造業	寒造りの季節で、吟醸酒もそろそろ絞り始まり、市場に出始めた。今年も良いお酒が出来上がった。
染色整理業	経済動向が不安である。
一般製材業	2月は1月ほどの加工数にはならなかったが、昨年に比べ15%位加工実績がアップした。1月・2月のあまり数字が見込めない時期としては良かったが、3月の予定は良好とはいえない状況である。
建具製造業	常総市の水害復旧工事などが目につくが、年度末らしい繁忙感はない。
木材・木製品製造業	住宅着工数が昨年に比べ減少している。木材業界にとって、今後の先行きと見通しが不安である。
印刷業	ニーズの変化、需要の縮小、過当競争、低価格、原材料価格の上昇など厳しい経営環境に変わりはない。
金属製品製造業	自動車関連では、最近の円高の影響下において、取引先の一部が減産傾向にある。今後の動向が分かりづらく、苦慮している。 産業用設備では、中国の減産の影響を受け、主力製品の受注が減少している。
一般機械器具製造業	本年2月は、前年同時期とほぼ同様の結果報告であった。ただし、全般的に景気の不透明感があり、今後の見通しに悪化懸念を抱いている組合員がいるようだ。
一般機械器具製造業	受注状況としては、少しずつであるが案件が来ており、好転している状況である。また、生産面としては工程改善による効果が出てきているために、少しずつであるが稼働率は良くなっている。しかし、全体を考えるとまだまだ改善する余地があり、継続して改善を行っている状況である。 業界の景況としては、大きな変化はなく今後に期待をしている。 雇用人員は、従業員の平均年齢が高くなっており、技術の伝承を考えるとまだまだ対応が必要であり、若い新入社員の雇用も含めて考えている。 新規設備導入を含めて対応中である。 収益状況、資金繰りの観点では、なかなか大きな好転までは厳しく、現在対策中であるが、案件として話があることから、今後を期待している状況である。
各種商品卸売業	業況としては、前年同月と比べ大きな変化はなかった。 最近の原油安について、石油を原料とした包装資材を取り扱う卸業者では、仕入先である大手商社は、値上げには敏感に反応するが、最近の原油安にもかかわらず、値下げ交渉に応じてもらえない。 建設資材卸売業の企業では、1月頃までは商品の流れが鈍かったが、2月中盤頃から好転しつつある。 今春の新卒者の採用状況については、多くの企業で採用には意欲的だが、思ったような人材を確保できずに苦慮しているようだ。特に、女性の営業職を積極的に採用したいのだが、営業職に対する先入観からか、応募の段階から女子学生が集まらないとした企業が数社あった。
食肉小売業	温暖で豚・鶏の出荷が多く、相場は安定してきたが、年明けから需要が落ちているため、収益が少ない。
中古自動車小売業	新車販売も14ヶ月連続前年度減、中古車も同様に減少している。下取車も少なくなっており、下取価格が下がらず、また、販売価格も上げられず、利益率が低下している。
各種商品小売業	寒い日が続き、人出が今一つだ。インバウンドの効果は、地方、特に宇都宮には見られないようである。JR・東武線ともに宇都宮で乗り換えることはあっても立ち寄らないため。

各種商品小売業	30周年の節目の年として振り返ってみると、盛り上がりには欠けた一年であったことは否めない。近隣の商業施設が続々とリニューアルしていく中、当ショッピングセンターの強み、特色を今一度検証し、打ち出していく必要がある。次の10年の生き残りのために、時代に合わせた在り方を確立していく。
花・植木小売業	春一番が発表されたと思えば、一転して真冬に逆戻りするような日になったりと、一定しない天候が続いたが、日中の日差しは大分暖かくなり、春の訪れを感じる。市場も桃の節句・雛祭りを前に、花桃をはじめとして、チューリップ、フリージア、スイートピー、菜の花など春の花で賑わいを見せた。入荷は全体的に前進開花傾向で、相場は単価高での市況推移となった。花業界の統一キャンペーンである2月14日のフラワーバレンタインは、年々認識されてきているようで、繁盛した小売店もかなり増えてきた。
理容業	若干来客数に増加傾向が見られ、収益が上昇しつつあるようだ。
自動車整備業	決算月前にしては、盛り上がりには欠ける感じがする。
ビルメンテナンス業	作業請負の分野で、最賃引上げに伴う時給改定を行ったこともあり、やや収益性が低下している。
給食センター	平成27年3月末で不採算部門の撤退があり、売上高は前年同月比で大幅な減少となった。食材・燃料・水道光熱費の価格が下がっていることや、不採算部門の撤退・新調理法で製造した弁当の拡販等コストダウンにより、収益は改善されつつある。
旅館・ホテル	前年度比、2月の業況は総じて悪化した。スキー客が1月に続いて減少している。残雪が少なく、3月の業況も危ぶまれる。
内装工事業	栃木県室内装飾事業協同組合の防災ラベル支給枚数から見ると、前年同月比カーテン用ラベルは59%増、敷物用ラベルは41%減、壁装用ラベルは13%増であった。平成27年4月～平成28年2月累計では、カーテン用ラベルは28%増、敷物用ラベルは19%増、壁装用ラベルは10%増であった。ラベルの支給金額の前年同月比は22%減、平成27年4月～平成28年2月累計では13%増であった。栃木県内建築物は縮小傾向にあるが、都心部のマンション建設は増えている。
一般貨物自動車運送業	売上高は、景気減速による荷物情報減少と、季節的要因が相まって減少したものとされる。若年層ドライバー不足も深刻な状況にあり、依然として厳しい経営環境である。
貨物軽自動車運送業	昨年同月と比べ、輸送量は好転していない。ただし、ドライバーや車両不足による配車不能等により、機会損失が生じている。2月末より引越し貨物が増大している。原油価格の下落により、輸送コストが下がり、利益率は良くなっている。運輸局の荷主企業アンケート調査によると、ドライバー不足でトラック事業者から輸送を断られたとする荷主企業は5割を占めた。輸送が遅れたのも2割強となっている。輸送できない危機を荷主企業と運送事業者が共有する必要がある。
一般乗用旅客自動車運送業	組合員の高齢化に伴い、屋型労働が多くなり平均売上が若干落ちている。宇都宮交通圏が特定地域指定基準に適合しているため、地域協議会において、平成28年3月までに指定の賛否を集約している状況である。今後、特定地域に指定されたタクシー事業者が適正化及び活性化に向け更に積極的に取り組む必要がある。
大谷石採石業	全体として、前年度同月比較で大幅減(約2割)と推定。業者間で増減が分かれており、1割増、同水準、4割減等の回答のように、二極化している。